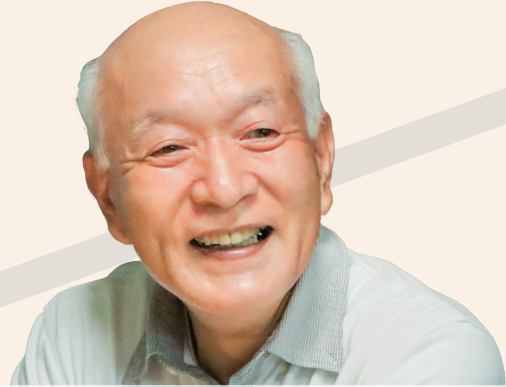


空き家バンクを利用した人に

お話を聞きました



若い家族に使ってもらえる。
それが一番の安心でした。

家を託した人
平川さん(福岡市在住 70代)

昭和57年に日田に自宅を新築したものの、仕事の都合で福岡へ転居しました。その後は父母が住んでいましたが、母の施設入所を機に空き家に。定年後は日田に戻るつもりでしたが、会社に必要とされ福岡での生活が続く中で、日田に帰ることは難しいと判断し、処分を決意。不動産会社の担当者から空き家バンクを紹介され、約1か月で登録が完了しました。当初は農地付き物件として登録しましたが、田んぼがネックとなり交渉が見送りになったことも。そこで田んぼは隣接する持ち主に別途売却し、家と畑のセットで空き家バンクに切り替え、成約への道が開けました。最終的に30代の片桐さん夫妻が購入してくれました。



行政が関わっているという安心感が
決め手のひとつです。

学生時代のホームステイで日田と縁ができ、「子どもたちを日本で育てたい」という思いから移住を決断。移住1年前の家族旅行で空き家バンクを知り、アメリカ在住中もホームページで物件を探し続けました。写真より実物の方がずっと良かったこの物件は、広さと造りの良さが決め手。約1,000万円のリノベーションを経て、家族の新しい拠点として生まれ変わりました。地域との関係も、工事前からの挨拶回りで少しずつ築かれ、自治会長をはじめ近隣の皆さんが「いつ来るのか」と入居を心待ちにしてくれていました。

若い人を買っていただけたらという思いで登録。片桐さんと出会い、購入に至った思いを聞く中で、「この人なら家も畑も大切にしてくれる」とすぐに感じられました。私がこの家を建てたのも30代のとき。アメリカから日田にホームステイした経験を持つ2人が、後に出会い結婚して、また日田に戻ってきた。まるで映画でも見ているようで、信じられない思いでした。思い入れのある家を手放す寂しさはありながらも、“若い家族に使ってもらえる”という安心感が大きかったです。空き家バンクは市が登録を判断しており、全国に発信される仕組み。登録したことで、大切にできた家を、大切にしてくれる人に届けることができました。



家を引き継いだ人
片桐さん(日田市在住 30代)

また、移住前から町内活動に顔を出していたこともあり、地域の一員として迎えてもらえたことが、ここに住み続けたいという気持ちの大きな支えになっています。古い家でも、残したい部分を活かしながら自分らしく再生できる。まずは内覧してみることをおすすめします。

この集落を残したい。
若い担い手を待っていました。

千葉での勤務を終え、定年後は日田に戻り農業をする予定でしたが、家族の事情が重なり、当初の生活設計が一変して熊本へ転居することに。農地を含む物件を誰に引き継ぐかを真剣に考え続けました。空き家になる2年前から空き家バンクの申請をするなど、早めの準備が功を奏し、登録から約半年で成約に至りました。家財整理は、2か月以上かけて自力で対応。思い出せば、今の体力ならもう難しいと感じるほどの作業でした。家を手放すことがゴールではなく、次に住む人が地域の一員として迎えられ、ことまで見据え、移住者がスムーズに地域に溶け込めるよう、自治会に対しても事前に受け入れの申し出を行っていました。



風景も、家の造りも、
売主さんの熱意も。すべてが決め手でした。

「農業を軸に、自分たちらしい暮らしをつくりたい」という思いを胸に、北海道から日田への移住を決意しました。福岡の実家に近い場所で子どもの成長に合わせた生活拠点をもちたいという思いも重なり、福岡へのアクセスの良さ、手頃な物件価格、豊かな自然環境が日田を選ぶ決め手になりました。空き家バンクで幅広く物件を探す中でこの物件に出会い、里山の原風景と立派な家の造りに魅力を感じました。見学後も宿利さんの真剣な働きかけが印象に残り、売主・買主の双方に前向きな気持ちがあったんだと思います。



家を託した人
宿利さん(熊本市在住 60代)

物件の掲載価格は若い世代でも手が届く金額に設定。条件は金額よりも、農地も含めて引き継ぎ、地域の担い手になってくれる若い移住者であることを一貫して求めました。日高さんに決まったとき、「本当にいい人が来てくれた」と安心しました。自分には娘が2人いるが、三女ができたような気持ち。田んぼも家も、日高家に嫁いでいくような感覚です。空き家になってからでは遅い。どう活用するのか、誰に引き継ぎたいのか、早めに考えて動くことが重要だと思っています。



家を引き継いだ人
日高さん(日田市在住 30代)

現在は床・天井・外壁・サッシなどを改修しながら、“この家の趣を残しつつ、少しずつ自分たちらしく整えていく”スタイルで暮らし、梨の新規就農も順調にスタートしています。空き家バンクは、第三者的な視点で案内してもらえる安心感があります。建物だけでなく、地域の雰囲気や人とのつながりまで事前に知れたことが、移住の大きな後押しになりました。